

令和3年第1回総合開発委員会計画部会 委員発言概要

日時：令和3年5月12日（水）10:30～12:10

場所：Web会議（事務局：道庁別館庁舎 4階 第3研修室）

【小林委員】

- サテライトオフィスやワーケーションの推進を通じて、定住・関係人口の増加、企業の移転に力を注いでいくべき。
- アドベンチャートラベルの有効性は大きい。引き続き強力で推進していくべき。
- IRについて、計画に「具体的にどういう準備をしていくのか」を盛り込んでいただきたい。
- 物流については、トラックドライバーの不足、高齢化、働き方改革の進展に伴う大きな問題がある。物流に関する課題・取組を明記し、強力に取り組んでいくべき。

【佐藤委員】

- わかりやすい伝え方をしていくべき。堅苦しいものは読む気にならない。
- ワクチンを接種した証明書やPCR検査の証明書を持って旅行をしようという動きもあり、旅行スタイルも変わっていくものと考えている。

【武野委員】

- Society5.0の話があったが、全ての世代が変革の恩恵を享受できる形にしてほしい。
- メッセージ性ということでいうと、安全・安心プラス快適な北海道。安全・安心では食料生産、有機栽培の拡大といったことも含めて前面に出してよい。
- SDGsのゴールとの関係は、政策の柱（中項目）レベルで整理すべき。
- IRについては、ギャンブル依存症の観点から、慎重に議論していただきたい。

【高橋副部長】

- 公共交通は大変厳しい状況にあるが、物流に関してはそれほど落ち込んではいない。人流と物流を分けて考えていかなければならない。
- メッセージ性はとても重要であり、メッセージの形や伝え方も大切。
- 教育にしても交通にしても、リアルとデジタルのベストミックスをどうやってつくっていくかということがポイント。

【森崎委員】

- 「女性の力が発揮できる環境づくり」という文言があるが、女性を助ける、女性を支援するというニュアンスに聞こえる。「女性の力を活かした」とか「女性の力を発揮する」などの主体的な言葉の方がよい。
- 伝わりやすいメッセージが非常に重要。「自分は何ができるか」というような、自分のこととして捉えられるメッセージが必要。

【山本部長】

- 各政策は独立して存在しているのではない。縦割りに陥らないようにしていただきたい。
- 北海道が日本の中でどういう役割を果たし、何を目指しているか、ということ明らかにし、だから我々が重要なのだ、というメッセージを入れたい。